

中間市新中学校施設整備実施計画（案）に対する 市民意見提出手続（パブリックコメント）の実施結果について

中間市新中学校施設整備実施計画（案）に対する市民意見提出手続（パブリックコメント）を実施したところ、結果は次のとおりとなりましたのでお知らせいたします。

記

実施期間	令和8年2月10日（火）から令和8年3月11日（水）まで
資料閲覧場所等	市広報及びホームページで告知 中間市役所情報公開コーナー（本館1階）、教育委員会教育総務課（本館3階）、 中央公民館（なかまハーモニーホール内）、中間市民図書館、ハピネスなかま本館、 中間市人権センター、中間市地域交流センター
応募資格	市内に在住、通勤、通学している人、この計画に利害関係のある人または団体
意見提出件数	37件（12人）
意見提出状況	郵便…0人 FAX…2人 電子メール…7人 持参…3人

対応区分		件数
A	意見を反映し、原案を修正したもの	3件
B	意見の趣旨・考え方が既に原案に盛り込まれているもの	7件
C	事業等の実施段階で、参考とするもの	14件
D	原案のとおり、その他の意見等	13件

No.	意見 提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
1	1	26	図3-2 左の方針の説明文と、右の挿絵がマッチしていないように感じます。挿絵がそれぞれどういうことをイメージしているのか教えていただきたいです。	A	1. 安全・安心な学びの場の挿絵は、十分な広さの普通教室のイメージです。 2. 未来を見据えた計画の挿絵は、学校施設の屋外活用のイメージです。 3. 地域とともにある学校の挿絵は、ラーニングコモنزのイメージです。 4. 環境・防災・経済性の挿絵は、自然エネルギーを活用した学校施設のイメージです。 ご指摘のとおり、2と3のイメージがマッチしていないため、入替を検討します。
2	1	27	3-4.1 7行目 新築することで、「アクティブラーニング」に最適な空間にすることができる旨が記載されていますが、アクティブラーニングでは、空間よりも指導方法の工夫・改善等、どのように取り組むかが重要だと思います。 また、同段落に列挙している「STEAM教育」等その他の手法に関しても、漠然とよりよい環境を求めて整備するのではなく、現状行っている取組みを評価し、今後行う具体的な取組みを計画した上で、その実現のために必要な整備を行ってほしいと思います。	C	ご意見ありがとうございます。今後、開催予定の開校準備協議会において、新中学校の教育指導計画などソフト面の検討を行い、具体的な取組みを反映した整備を行います。
3	1	28	3-4.3 前段の「長寿命化改修」を行う場合では、「4校」を残した場合を想定していますか。 ここでは、再編をしない場合と新築の場合を比較しているのかもしれませんが、2校に再編することが決定しており、新築の場合を2校で計算しているのであれば、「2校」を解体、「2校」を残す想定での試算も示すべきだと思います。	D	ライフサイクルコストの試算条件を「中学校4校のうち2校を改修し、2校を解体する」とする場合、現在の学校は建築から50年以上経過し、老朽化が著しいため、改修をしても20年後には新築する必要があり、結果、現在お示ししている2校新築のライフサイクルコストを超過することが想定されます。このことから、現在の試算条件で比較検討を行ったところで

No.	意見 提出者	意見について			対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目	内容		
4	1	30	3-4.5	<p>「新築による施設整備手法を選択する」との記載があり、「次世代への希望の象徴」として機能し、「より円滑な合意形成が可能になる」とされています。</p> <p>構想の段階であれば、気持ち・感情面を考慮して高い理想を掲げることは重要ですし、「未来を担うこども達のために新築の素晴らしい校舎を建設したい」というのが、市民を含め、再編に関わる全ての方の想いであるとは思いますが、計画の段階に至れば、その理想が実現可能なのかについて財政面を含めて十分に検証し、道筋を示した上で選択をするべきだと思います。</p> <p>仮に中学校再編のみを考えれば可能であったとしても、その後控える小学校再編に充てる予算は捻出できるのでしょうか。</p> <p>また、再編検討委員会において委員から意見がありました「財政面の懸念点」について検証し、懸念点を解決した上で「新築を選択」しているのでしょうか。</p>	D	<p>近年の建設物価は高騰が継続しており、老朽化した学校施設の整備費に多額の事業費が必要となることは、財政面の懸念点と承知しております。一方で、学校設置者として安全な教育環境を整備する責務もあると考えます。このことから、長期的な観点で本市にとって学校施設をどうするべきかについて、教育委員会事務局では新築ありきではなく長寿命化する場合も含めて検討を行いました。また、中間市コミュニティ広場・学校再編検討委員会等にも諮問し答申を頂いた上で施設整備の方向性を検討したところです。しかしながら、市の財政負担の縮減に向けて、国庫補助金の活用や、施設整備内容等について更なる検討を行いながら、市全体のまちづくりの方向性を踏まえつつ本事業を推進していくことが重要と考えております。</p>
5	1	31	3-5.2 1行目等	<p>この計画が、多くの市民等に目を通していただく必要があるものであることを考えると、「狭隘」の「隘」は常用漢字ではないため、ひらがな表記が良いと思います。</p>	A	<p>「狭隘」の表記を「狭あい」に改めます。</p>

No.	意見 提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
6	2	—	— <p>中間市の学校は、どこも草刈りや剪定、枯れ葉集め等の作業は毎年市から20万円の予算をつけて頂いてシルバー人材センターにお願いしたり、会計年度職員（教育業務支援員）さんにしていただいておりますが、それだけでは到底間に合わず、学校職員で行っています。</p> <p>ただ、学校職員も皆さん忙しく、外作業のできる人も管理職や事務職員になってしまい、その中でも、体力のある男性になってしまいます。ちなみに中間中学校は、現在校長と県事務職員が男性の為、3～10月くらいまで、月1、2回除草剤をまいたり、草刈りをしたりしています。</p> <p>除草剤等の環境整備費用もばかにならず、15～20万円近くになっております。</p> <p>PTAからも環境整備費として、10月に20万円で業者に委託しました。</p> <p>また、花壇等の環境美化も皆さん忙しく昔のように皆ですることなくなり、する人も勤務時間外や土日で行っているような状況です。</p> <p>このような事を考えると極端な考えではありますが、校舎外の敷地、法面等は極力草木が生えないアスファルトかコンクリートにさせていただき、グラウンドも草が生えないようなものにしていただきたいです。</p> <p>木も大きくなるようなものではなく、剪定も必要なく、枯れ葉などが無いものにしてもらいたいです。極端な話、個人的には、桜も花壇も不要かなとは思っています（職員の負担軽減）。</p>	C	今後開催予定の開校準備協議会等において、維持管理しやすい施設整備を十分に検討し、「草刈りや剪定、枯れ葉集め等の作業」に限らず、様々な場面において教職員の方々の負担を軽減できる施設となるよう検討して参ります。
7	2	—	— <p>中間市は元気な子が多くよく窓ガラスが割れるので、可能であれば割れる可能性が低いアクリル板などにさせていただきたいです。</p> <p>後で、誰が弁償するのかいつももめて大変なので、していただくと助かります。</p>	C	ご意見ありがとうございます。詳細な仕様については、基本・実施設計時に検討する予定です。
8	3	—	— <p>一時統合がR10年とあるが間に合うのか。</p>	B	スケジュールは予算の確保や入札が滞りなく行われた場合の予定工程です。早期に安全な教育環境の整備を実現するため、最大限の努力をして参ります。
9	3	—	— <p>東中の付近の道路の狭さや学校への送迎時の混雑や生徒たちの安全を守って作ってほしい。</p>	B	ご意見ありがとうございます。生徒たちの安全な通学環境の確保に向けて、歩行者・自転車・車両の動線が出来るだけ交わることがないようなアクセス動線の整備を検討して参ります。

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
10	3	—	— 新設で建替えることを強く希望（学校の老朽化）（南中よりも古い東中での開校なので）	B	新中学校の整備方法について、本計画では、教育の質の向上・地域コミュニティの活性化・長期的な財政効率化・安全性の確保等の多面的な価値を生み出す、地域の未来を見据えた戦略的投資と捉え、新築を選定しています。今後も市の方針に基づき、市全体のまちづくりの方向性を踏まえた中で学校再編の取組みを進めて参ります。
11	3	—	— 子供達のメンタル面へのフォローの充実や、カウンセラーの増員等。	C	学校の再編により、子供達の抱える不安感や戸惑いなどに、どのように対応するべきかについて、今後開催する開校準備協議会において検討して参りたいと考えております。
12	3	—	— プールは作らず市営プールでの授業と噂で聞いたが、わざわざ市で作らずスイミングスクール等に委託してはどうか？	C	文部科学省から「学校における働き方改革に配慮した学校プールの管理の在り方について」の通知があり、学校プールの管理業務に関する教職員への負担軽減を図ることとされております。このことから、新中学校にはプール施設を整備しないことで、その負担を軽減することについて検討しているところです。また、プール施設の整備方法については現時点では決定しておりませんが、市内に民間スイミングスクールがなく、市外への移動には多くの時間と経費を要すること等を鑑み、様々な方法を検討し、最適な整備方法を検討して参ります。
13	4	—	— 地域連携やコミュニティの拠点、災害対応を目的とした機能として、多目的機能（室）、屋内運動場、武道場等をの活用を図られていると思いますが、地域活動や災害活動に係る消耗品や備品等の備蓄機能や管理体制についてはどのように想定されていますか。	C	基本設計の段階で、関係各課と連携を図りながら、災害時の避難所としての具体的な整備内容や有事の管理体制について検討して参ります。また、避難所やコミュニティの拠点として整備するにあたり学校教育の継続性などに影響がないようなゾーニングを行う予定です。
14	4	—	— 学校施設敷地内のセキュリティ対策については明示されていますが、通学区域や通学路における防犯カメラ設置等の方策はどのように考慮されていますか。	C	学校敷地外の防犯対策に関しては、関係各課と連携を図りながら今後検討して参ります。
15	4	50	図5-1 一部に文字の欠落が見られます。	A	ご指摘ありがとうございます。修正いたします。
16	4	—	— 施工期間中、例えば中間東中学校に通学する土手ノ内在住の生徒は、本来であれば仮校舎となる中間南中学校に通学することになると推察します。その場合の通学距離はゼンリンによる計測によれば約3.5～4.0kmに及ぶことになり、自転車通学が可能になるとはいえ、生徒の通学の負担はかなり大きなものとなります。希望すれば「施工期間中の特例などによる『従来の校区外』の中学校への越境通学」等は可能となるのでしょうか。	C	新中学校の通学区域については、中間市立小中学校通学区域審議会に諮問を行い、3月2日付で答申をいただきました。今後は、答申内容を踏まえ通学区域を検討し、決定して参りたいと考えております。また、通学方法については、通学区域が決定した後に具体的に検討することとしていることから、ご意見の中にあります「自転車通学が可能になる」につきましては、自転車通学の導入を含めて未定です。教育委員会事務局といたしましては、学校再編の取組みによる生徒への影響について、安全な通学環境等を含め、総合的に検討する必要があると認識していることから、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
17	5	47	4-12. 設備計画 1. 基本方針3～4行 目 本文記載について、以下の通り追加いただきたい。 (原文) また、災害時の避難所としての機能を十分に発揮できるバックアップシステムを構築します。 (修正案) また、災害時の避難所としての機能を十分に発揮できるバックアップシステム【例：停電時自立機能を持つコージェネレーションを含む発電機やGHP等】を構築します。	B	ご意見ありがとうございます。具体的なバックアップシステムの内容については、今後の開校準備協議会や基本設計において検討して参ります。
18	5	48	4-13. 環境計画 1. 基本方針3～4行 目 本文記載について、以下の通り追加いただきたい。 (原文) 新中学校においても「中間市第3次環境基本計画(令和7年3月)」の内容を踏まえZEB認証を目標とした、人と自然とが共生する持続可能な施設づくりを目指します。 (修正案) 新中学校においても「中間市第3次環境基本計画(令和7年3月)」の内容を踏まえ、【ライフサイクルコストとレジリエンスにも十分に配慮しながらZEB認証を目指し、人と自然とが共生する持続可能な施設づくりに取り組みます。】	B	ご意見ありがとうございます。ライフサイクルコストとレジリエンスに十分配慮しながらという趣旨は、P26の3-3基本方針の「4つの基本方針」4. 環境・防災・経済性に記載されていますので、4-13. 環境計画では環境計画に特記した記述となっております。
19	6	27	第3章3-4 施設整備手法の検討 案にあるように、令和10年の早期開校を進めてほしいです。また、新校舎は文科省のインクルーシブ教育システムを具現化したモデルケースであってほしいと願います。 エレベーターに加え、多目的トイレ、カムダウン室やセンサリールーム等を標準装備し、多様な感性を持つ子が安心できる環境を整えてほしいです。 教育の充実、子育て世帯の定住移住、少子化対策の大きな柱にもなります。	C	ご意見ありがとうございます。教育委員会事務局として早期に充実した教育環境を実現できるよう尽力して参ります。また、インクルーシブ教育システムに関する諸室構成については、今後の開校準備協議会や基本設計において検討いたします。
20	6	26	第3章3-3 基本方針 学校は市民全員の財産です。災害時にはマンホールトイレや再エネ、プライバシー確保など、誰もが頼れるフェーズフリーな防災拠点としての高機能化を求めます。 平時には図書館等を地域に開き、多世代が交流するコミュニティの核となる、温かい動線設計を期待します。	C	ご意見ありがとうございます。平時においては地域コミュニティの核として、災害時には防災拠点として、「市民全員の財産」となるよう、引き続き施設整備を推進していきます。
21	6	39	第4章4-3 配置計画 中間市の財政を考えると、コスト削減もとても大切です。しかし同時に、初期投資はかかりますが、2校とも将来的な小中一貫教育への移行も見据えた設計をおこなう方向で進めていただきたいです。	D	本計画は、義務教育の集大成である中学3か年の学びと生活を充実したものとするため、中学校を先行した学校再編の取組を進めております。現時点では、市の方針に基づき、中間中学校敷地への底井野小学校機能の移転について、その実現可能性を検討したところであり、小学校の配置については決定しておりません。小中一貫校についても更に検討を深めていく必要があると考えております。今後も充実した教育環境となるよう検討を進めて参ります。

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
22	7	3	第1章1-4. 通学区域等 通学がかなり遠くなりますが、どのように対処するのでしょうか？ 3キロ圏内とのことですが、3キロを歩いて通学は厳しいと思います。	D	現在、本市中学校の通学距離は概ね3km圏内であり、これは国が示す中学校の通学距離の適正基準である「概ね6km以内」を満たすものです。また、再編後の新中学校の通学距離も、現在と同様の概ね3km圏内とすることを計画しております。しかしながら、中学校再編によって今よりも通学距離が長くなる生徒が生じることは事実であり、その影響と対策について、安全な教育環境等を含め、総合的な検討が必要であると認識していることから、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。
23	7	—	— 工事はどのくらいの期間で終わる予定なのでしょうか？	B	第5章5-1. 整備等に係る事業手法と事業スケジュールの中で、従来方式（設計・施工分離発注方式）とDB方式（設計・施工一括発注方式）のスケジュールを検討し、本計画の検討では、設計と施工を分離した「従来方式」で整備をすることが望ましいとの判断をしております。この場合は、P511にお示ししておりますとおり、新中間中学校（仮称）の建設工事には33ヶ月、新中間東中学校（仮称）は造成期間も含め44ヶ月の期間が必要と想定しております。
24	7	—	— 今後のクラス編成や先生の人員配置等はどうなるのでしょうか？	D	再編校のクラス編成や先生の人員配置につきましては、関係法令や関係部局と連携を図りながら、生徒の教育環境がより良くなるよう検討、協議をしていく予定です。
25	7	—	— 工事のことよりも保護者は教育がどのように変わっていくのかが気になりますが、中身についての計画が薄く、とても不安です。 しっかりと内容が固まってからの統合にしていただかないと子どもたちも不安になると思います。	D	本計画は、新中学校施設の整備に当たり、基本的な考え方を示すことを目的としており、4つの基本方針を掲げ、多様な学びや様々なニーズに対応できる充実した施設整備を目指すものです。 「教育がどのようになるのか」等につきましては、今後開催予定の開校準備協議会において検討して参ります。
26	8	—	— ・子ども達が安全に通える学校、保護者が安心して通わせられる学校施設作り ・昭和作りの今の建物だと、机や教室、グラウンド、体育館とあらゆる所が手狭なので、子ども達がストレスを感じず伸び伸びと勉強、活動等、学校生活を楽しめる環境、施設作り ・今までの読み書きはもちろん、今の時代のニーズに合わせたICTの学べる環境作り ・不登校や学校に来にくい子ども達が、少しでも通いやすくする為にも、様々な状況やニーズに応えるべく、少人数教室、特別支援学級等の施設の充実 ◎子ども達が安全で、ストレスなく快適に楽しく、不登校の子どもがいなくなるくらい「通いたくなる学校、楽しく学べる学校」作りをして頂ける事を、心より願います。	B	ご意見ありがとうございます。中間市教育委員会では、「地域とともに未来を拓き育む、次世代の新中学校」を計画コンセプトに据え、4つの基本方針、①安全・安心な学びの場、②未来を見据えた計画、③地域とともにある学校、④環境・防災・経済性を柱とした計画の早期実現を目指します。今後は、不登校や学校生活に不安を感じる子供たちが通いやすくするための取組みなど、開校準備協議会でソフト面の協議を進めて参ります。

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目		
27	9	—	—	D	<p>子供たちの教育環境をより良いものとするためのご意見をいただき、ありがとうございます。ご指摘のとおり、OECD(経済協力開発機構)による2023年の調査結果では、日本の中学校の1学級当たりの生徒数は約32人であり、OECDの平均は約23人です。一方で、OECDが実施しているPISA(15才の学力を調べる国際調査)の日本の順位は、読解力3位、数学5位、科学2位と3分野すべてにおいて世界トップレベルです。</p> <p>本市の学校再編の取組みは、児童生徒数の減少、学校施設の老朽化、教育内容の多様化等、児童生徒を取り巻く環境が急速に変化する状況において、最適な教育環境を整備し、充実した環境の中で更なる教育の質の向上を図ることができる学校を目指すものであり、将来にわたって持続可能な学級数を維持することができる学校づくりを行うために検討を進めているところです。</p> <p>本市の将来を担う子供たちが、クラス替えができる学校規模の中で、この先どのような課題が生じようとも未来を切り拓いていく力を育むことができるよう、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に努めて参ります。</p>
28	9	—	—	D	<p>平成31年に策定された中間市学校施設長寿命化計画では、老朽化状況やライフサイクルコストなどを含め検討した上で、「築50年を迎えつつある建物については、長寿命化改修により目標耐用年数が約80年へと延長された場合でも、建替えの残年数が30年を下回る状況もあり得ることから、費用対効果や今後の学校施設再編計画(中間市学校施設整備方針)に基づき、長寿命化改修ではなく部位修繕を行った後、建替えを行うことを検討する必要があります。」と事業計画の検討がなされております。</p> <p>今回の新中学校施設整備実施計画(案)においても、長寿命化改修や新築を様々なパターンで検討した結果、長期的に見て最も望ましい案を選定しております。</p>

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目 内容		
29	9	—	— それと、市のこれまでの対応として、耐震化を図りエアコンを設置し、下水道を完備し、再び体育館のエアコンを完備しようとしています。それでいて数年後には建て替えか廃校を予定しています。全く計画に一貫性がありません。場当たり的と言えます。完全な無駄の連続です。もう少し専門家の知見も入れて長期に対応できる計画に基づいた対応をすべきです。	D	児童生徒が学び、生活する学校が安全安心なものとなるよう、これまで校舎等の耐震補強工事や下水道接続工事、普通教室等への空調設備設置工事、トイレ改修工事等を実施してきたところです。また、近年の猛暑により体育館での活動時における熱中症リスクが高まっていることから、児童生徒の安全と良好な教育環境を確保するため、令和8年度に体育館の空調設備設置工事を予定しております。一方で、ご指摘のとおり、学校再編の取組みを進めておりますことから、体育館の空調設備は再編時に移設するよう検討していく予定です。
30	9	—	— 通学手段についてですが、小学校はまだ再編計画の具体化はされていませんが、以前の計画ではスクールバスの運行の案がありました。現在、地域の方々が子どもたちの登下校時に見守り活動をし、子どもたちに声をかけています。この環境は子どもたちにとっても非常に良い環境だと思います。また、中学校は2校となりますと、自転車通学が必用かと思いますが、今の中間市の道路状況を見たときにこれはあまりにも危険です。こうした点からも歩いて通える学校の配置が理想的だと思います。その点では現在の学校数を維持すべきです。元々、国の方針としても中学校は、人口 8000人に1校というのがありました。それでいくと、中間市には5校必要ということになります。それが、2校というのはあまりにも少なすぎると思います。	D	子供たちの安全安心な通学環境は、地域の皆様による日頃の見守り活動によって支えられているものであり、心から感謝申し上げます。 ご指摘の新中学校への通学方法については、現時点では自転車通学の導入を含めて未定であり、安全な通学環境等を含め、総合的に検討する必要があると認識していることから、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。 また、本市の学校再編の取組みは、最適な教育環境を整備し、充実した環境の中で更なる教育の質の向上を図ることができ学校を目指すものであり、将来にわたって持続可能な学級数を維持することができる学校づくりは、その重要な要素の一つであると認識しています。今後もこの目標に向け、文部科学省の基準に則り、取組みを進めて参ります。
31	9	—	— スローガンとして、「子どもたちが通いたい学校、保護者が通わせたい学校、教職員が働きたい学校」を強調しますが、建物と設備が新しければよい学校かと言えば、そうではないと思います。問題は教育の質です。豊かな人間関係とゆったりとした環境の中で学べるのが大事だと思います。ICT教育にしても、今の狭い教室にひしめいていて、充実した授業ができるとは思いません。こうしたことを考えると、既存校を半減させ、新たな校舎建設で進めようとしている今の計画には反対です。	D	本市の学校再編の取組みは、最適な教育環境を整備し、充実した環境の中で更なる教育の質の向上を図ることができる学校を目指すものであり、将来にわたって持続可能な学級数を維持することができる学校づくりは、その重要な要素の一つであると認識しています。ご指摘の「豊かな人間関係とゆったりとした環境の中で学ぶ」ためにも、文部科学省の基準に則り、取組みを進めて参ります。
32	10	3	1-4. 通学区域等 現在の中学校区を基本としつつも、個々の事情や本人の強い希望がある場合には、選択肢が欲しい。	C	新中学校の通学区域については、中間市立小中学校通学区域審議会に諮問を行い、3月2日付で答申をいただきました。今後は、答申内容を踏まえ通学区域を検討し、決定して参りたいと考えております。 学校再編の取組みによる生徒への影響については、安全な通学環境等を含め、総合的に検討する必要があると認識していることから、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。

No.	意見 提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解		
		ページ	項目			内容	
33	11	—	—		<p>中間南小学校の近くから東中学校に子供が通うようになるのですが、中学生になると毎日荷物も多いし距離も南中学校から遠くなるのですごく心配です。もし自転車通学になったとしても自転車が安全に通えるほど設備が整っていません。道も狭いし朝は車も多いです。下り坂、上り坂もあって雨の日、豪雨の時など安全面がとても心配で不安です。運動会など、南区域から行ってる人は車で見に行かないと不便です。いろいろと勝手に決まってしまうので子供本人や家族は不安と心配ばかりです。遠くから通う子供が安全に登校、下校が出来る、家族が納得する案を提供してもらいたい。未来のある子供達なので。</p>	D	<p>本市の学校再編の取組み経緯としましては、最適な教育環境を整備し教育の質の向上を図るため、将来にわたって持続可能な学級数を維持することができる新中学校の配置として、中間中学校敷地と中間東中学校敷地を活用した再編を行うことが、令和7年1月に「中間市学校施設整備方針」において決定しております。この決定に至るまでには、令和6年6月の総合教育会議以降、小中学校の校長・教頭やPTA会長、PTA役員の方々と意見交換会を行って参りました。通学手段につきましては、現在、本市中学校の通学距離は概ね3km圏内であり、これは国が示す中学校の通学距離の適正基準である「概ね6km以内」を満たすものです。また、再編後の新中学校の通学距離も、現在と同様の概ね3km圏内とすることを計画しております。しかしながら、中学校再編によって今よりも通学距離が長くなる生徒が生じることは事実であり、その影響と対策について、安全な教育環境等を含め、総合的な検討が必要であると認識していることから、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。また、その取組みについて皆様に周知するため、情報発信に努めて参ります。</p>
34	12	38、 39、50 ～57	4-2. 造成計画 4-3. 配置計画 第5章 事業推進 に向けた検討		<p>①教育関係。一部財政も。 学校再編は子どもたちの教育環境のために必要な取り組みだと思えます。新中間中学校9クラス、新中間東中学校24クラスと、かなり差があります。 将来クラス替え、部活動、教員配置に影響する可能性がないか？どのようにお考えでしょうか？ 一方で、昨今の物価高や建設費の高騰、敷地の高低差や斜面が多く造成工事に費用を要すると思えます。計画通りの整備が難しくなる可能性もあると思えます。どの程度を想定されているのでしょうか？そして、その場合でも、教育環境や通学安全が損なわれることのないよう、段階的な整備や柔軟な見直しも含め、確実に実現できる計画として進めていただきたいと思えます。 造成費が高く、建設費上昇も考えると財政基金超えることが予想されます。規模調整も必要だと考えますか？ 教育環境は守りたい。子どもたちの教育環境を守るために、現実的な形で確実に進めてほしいと思えます。</p>	C	<p>新中学校の通学区域については、中間市立小中学校通学区域審議会に諮問を行い、3月2日付で答申をいただきました。今後は、答申内容を踏まえ通学区域を検討し、決定して参りたいと考えております。このため、本計画における新中学校のクラス数は想定であり、特に中間東中学校は本市の人口分布に起因し大規模な学校となる可能性があることから、24クラスでの概算事業費の算出を行いました。 教育委員会事務局としては、両校の生徒数の差はできるだけ小さなものにとしたいと考えており、設計業務に進む際には決定した通学区域に基づいた生徒数予測によってクラス数を整備することとしております。 事業費については、安全・安心で質の高い教育環境を整備する上で、必要となる学校規模の想定に基づく概算事業費を算出したものであり、今後の建設費上昇により変動するものと考えております。具体的には、設計と工事を分離発注する従来方式での整備が望ましいと考えており、基本・実施設計の段階で、必要な整備を網羅し、無駄を削減して長期的な観点から経済的な学校施設整備を目指します。</p>

No.	意見提出者	意見について		対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解	
		ページ	項目			内容
35	12	38、 39、50 ～57	4-2. 造成計画 4-3. 配置計画 第5章 事業推進 に向けた検討	②安全面について 新中間中学校は敷地に高低差がありますが、生徒の移動やバリアフリー、安全面についてどのように配慮されているのか教えていただきたいと思います。また、工事ローリングのステップ2で、生徒、工事、車両、の動線が同じとなっています。生徒の通学に配慮していただけたらと思いますが、近年は生徒の出校時間もまちまちですので、安全には十分配慮していただきたいと思います。 新中間東中学校についても、南中学校に登校することですが、すべての生徒が通うのか分配するのか？いきなり、かなりの大きな規模になると思います。新中学校開校に向けては、いいこともあると思いますが、教員の配置、教員の負担増、生徒のケア、一人一人に寄り添えるのか？小学生を含めた通学の安全などどのようにお考えでしょうか？この点も含め、実は小学生の方が問題に思います。中学生はある程度体力もあり、自転車ですが、小学生は徒歩が基本です。 学校再編により通学区域や通学路が変化することで、児童生徒の通学環境にも影響が出る可能性があります。特に今回はこのように中学校再編が先行するので、小学校再編までの期間においても通学安全の確保が重要になると思います。 通学路の整備や見守り体制など、市としてどのような対策を考えているのか示していただきたいと思います。学校、地域、保護者に過度な負担がかからないようお願いします。	C	新中間中学校の敷地については、開発行為の許可基準を満たしておらず大規模造成ができないため、高低差を無くすことは極めて困難です。このため、敷地内高低差を階段だけでなく、車椅子等での通行を可能とする構内通路で結び、アクセスし易い計画としております。 工事中の安全確保については、中段に新校舎を整備する際に下段から工事車両を入れることが困難であるため、ご指摘のとおり、既存校舎に通学する生徒の動線と分離することができないものと考えております。このことから、工事中の生徒等の安全確保のため、交通誘導員を正門等に設置し、工事車両の乗り入れを管理することで、安全に配慮していく予定です。 中間南中学校での一時統合に係る通学区域については、現時点では未定です。現在、中間市立小中学校通学区域審議会に諮問し、答申をいただき、検討を進めている新中学校の通学区域と併せて、学校再編の取組みによる生徒への影響を最小限にできるよう、安全な通学環境等を含め、総合的に検討して参ります。 教職員の配置については、本市学校教育課及び福岡県と協議、連携し、中学校再編に万全の体制で取り組んで参ります。児童生徒のケア、通学路の課題等につきましては、重要課題の一つと捉えておりますので、今後開催予定の開校準備協議会等で検討して参ります。

No.	意見 提出者	意見について			対応区分 A～D	中間市教育委員会の見解
		ページ	項目	内容		
36	12	38, 39, 50～57	4-2. 造成計画 4-3. 配置計画 第5章 事業推進 に向けた検討	③財政について 今回の資料を見ると、新中間中学校：約 73.6億円、新中間東中学校：約 119.6億円、合計約193億円。 しかし今、日本では学校建設費が急激に上がっています。理由は建設資材高騰、人手不足、建設会社減少です。実際には当初計画より20～40%増という事例が多いそうです。もし30%上がると計算すると193億円が約250億円になります。さらに、今回の計画では、造成費が高い。昨今、建設費の高騰や建設業の人手不足が全国的に問題になっています。今回の整備計画についても、今後工事費が上昇する可能性があると思いますが、その場合の対応やリスクについてどのように考えているのか教えていただきたいと思います。 財政状況も理解していますが、学校は将来の子どもたちのための施設であり、私たち市民の地域によってコミュニティの中心となるものです。計画の見直しが必要になった場合でも、教育環境や通学安全が損なわれないよう進めていただきたいと思います。また、適時説明会を行い、住民に十分な周知をお願いします。	C	学校再編の取組み経緯としましては、最適な教育環境を整備し教育の質の向上を図るため、将来にわたって持続可能な学級数を維持することができる新中学校の配置として、市の方針に基づき、市全体のまちづくりの方向性を踏まえ、中間中学校敷地と中間東中学校敷地を活用した再編を行うことが、令和7年1月に「中間市学校施設整備方針」において決定しております。この決定に至るまでには、総合教育会議のほか、小中学校の校長・教頭やPTA会長、PTA役員の方々と意見交換会を行ってきたところです。 今後の工事費の上昇が見込まれることについては、ご指摘のとおりです。継続する物価高騰や建設資材価格の上昇に加え、中東情勢の緊迫化による原油価格の上昇が懸念されるなど、経済情勢の先行きは不透明な状況にあります。こうした状況を十分に踏まえつつ、事業費への影響や将来的なリスクを見極めながら、必要な対策を講じ、学校再編の取組みを柔軟かつ着実に進めて参ります。 今後も市の方針に基づき、市全体のまちづくりの方向性を踏まえた中で学校再編の取組みを進めて参ります。また、その取組みについて皆様に周知するため、説明会に限らず、「中間市学校再編だより」やホームページ等によって情報発信に努めて参ります。
37	12	38、39、50～57	4-2. 造成計画 4-3. 配置計画 第5章 事業推進 に向けた検討	④その他 中間市の規模に対し、かなり大きな学校を作ろうとしていると感じますが、今回の中学校再編が、将来の小学校再編や小中一貫教育も含めた長期的な学校配置の中でどのような位置づけなのか教えていただきたいと思います。 最後に、近年の物価高騰や建設費の上昇などにより、学校整備に多くの財源が必要となることは理解しています。しかし学校は子どもたちが長い期間学び、成長する大切な場所であり、将来の中間市を支える人材を育てる基盤でもあります。 また学校は教育施設であると同時に、地域の防災拠点やコミュニティの中心としての役割も担う重要な施設です。 将来の子どもたちの教育環境を考え、可能な限り新築による整備を進めていただくことを望みます。	D	新中学校の通学区域については、中間市立小中学校通学区域審議会に諮問を行い、3月2日付で答申をいただきました。今後は、答申内容を踏まえ通学区域を検討し、決定して参りたいと考えております。このため、本計画においては最大数を想定したクラス数としており、設計業務に進む際には決定した通学区域に基づいた生徒数予測によってクラス数を整備することとしております。 中学校再編後に取組むこととしている小学校再編について、その配置が決定しているわけではありませんが、市の方針に基づき、市全体のまちづくりの方向性を踏まえ、中間中学校敷地に底井野小学校機能を配置することについて、本計画において実現可能性を検討しており、そのスペースの確保など、将来的な計画に柔軟に対応できる配置計画としております。 新中学校の整備方法について、本計画の検討では、教育の質の向上・地域コミュニティの活性化・長期的な財政効率化・安全性の確保等の多面的な価値を生み出す、地域の未来を見据えた戦略的投資と捉え、新築を選定しています。今後も市の方針に基づき、市全体のまちづくりの方向性を踏まえた中で学校再編の取組みを進めて参ります。